

平成二十六年 度

# 入 学 試 験 問 題

国 語

(四十分)

## 注意事項

- 一、「はじめ」の合図があるまで問題用紙を開かないこと。
- 二、答えはすべて解答用紙に記入すること。
- 三、解答用紙に受験番号と名前を記入してから始めること。
- 四、質問その他、試験中に用がある場合はだまって手をあげること。
- 五、「やめ」の合図があったら、すぐ筆記用具を置くこと。

一

次の——線部を、1～5は漢字で、6～10は漢字とひらがなでいいねいに書きなさい。

- 1 道路ひょうしきに従う。
- 2 よだんを許さない。
- 3 寺でしゆぎようする。
- 4 技術者をようせいする。
- 5 こなゆきが降る。
- 6 消息をたつ。
- 7 てあみのセーター。
- 8 口で言うのはやさしい。
- 9 人がむらがる。
- 10 運命に身をゆだねる。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ひとはなぜじぶんの身体の表面にひどく関心をもつのでしようか。どうして色を塗ったり、穴を開けたりするのでしようか。あるいはもつと一般に、<sup>①</sup>どうしてひとは外見を気にし、それにさまざまな加工をほどこすのでしようか。

このような問いを立てると、きまって返ってくる答えがあります。衣料は変化のはげしい自然環境から身を守るためのものだという答えです。強い日差しを避ける、冷氣から身体を守る、熱い地表から足裏を保護するというふうにあるいは現代都市の人工環境なら、<sup>②</sup>冷暖房の効いた部屋で体温を調節するというふうには、

A A そういう面が衣料にはあります。体温の調節装置、皮膚の保護膜、<sup>③</sup>身体運動のサポーターといった機能的なはたらきのない衣服というものは、I I などをのぞけば、ほとんど考えられません。

B B、わたしたちが現在、身につけている衣料を考えた場合、身体保護ということの説明できるものよりできないもののほうが多いのではないのでしょうか。すぐに思いつくものに、男性ならネクタイ、女性ならハイヒールがあります。<sup>④</sup>ネクタイには、社会的な記号としての意味はあるでしょうが、身体保護といった目的は見いだせません。ハイヒールとなれば、<sup>⑤</sup>踵は異様に高いし先は尖っているというふうには、歩行という機能に反するようなII

かたちをしています。まるでわざわざ歩きにくくするために考案されたと言いたくなるくらいです。身体を保護するどころか、逆に、履きなれるまでに<sup>⑥</sup>幾度も皮膚を傷つけ、骨を痛めるものです。ほとんどの靴は人間の足のかたちを無視した紡錘形のシルエットになっていますが、このことも靴のシルエットが人間の足を大地から保護する以上の意味を含んでいることをしめています。

C C、アクセサリーにどんな機能的な意味があるのでしょうか。ピアシングのように、身体のいろいろな部分に穴を開ける行為は、III III というよりもむしろ毀損するものではないのでしょうか。\* コルセット風のファンデー

ションはどうでしょう。多くの女性が夏にでもはくストッキングや女子高校生のルーズソックス、あるいはソヴァー  
ジュ・ヘアや茶髪、これらははっきり「反機能的」と言えないでしょうか。そして、わたしたちは身づくろいする  
きに、まさにこういう部分にひどく神経を使うのです。ひとが装いとかファッションと呼んでいるものには、機能的  
ということだけでは説明がつかない要素がいっぱいあるわけです。

(鷺田清一『ひとはなぜ服を着るのか』より 問題用に一部改編している。)

【注】

- \*サポーター …… うでやあしの関節部分を保護するゴム入りのバンド
- \*紡錘形 …… クラツカーのように先の尖った形の底面を二つつなげた形
- \*ピアシング …… ピアスをつけるための穴を開けること
- \*毀損 …… ものがこわれること。また、こわすこと
- \*コルセット風のファンデーション …… 女性が体形を整えるためにつける下着
- \*ソヴァージュ・ヘア …… 一九八〇年代に流行した、細かくパーマをかけて、ウェーブをつけた髪型

問一 二ヶ所の〰〰線「ひどく」と最も近いものをあとからひとつ選び、記号で答えなさい。

- ア さまざまに
- イ とても
- ウ はなはだしく
- エ 無条件に

問二 〰〰線①「一般に」と最も近いものをあとからひとつ選び、記号で答えなさい。

- ア 言いかえると
- イ 具体的に言うと
- ウ まとめて言うと
- エ ひろく言うと

問三 〰〰線②「ふうに、」のあとに言葉を補うとすれば、どのような言葉が入りますか。本文中のひと続きの言葉  
を十九文字で抜き出さない。

問四 

A	〰〰	C
---	----	---

に入る言葉の組み合わせとして最も適切なものをあとからひとつ選び、記号で答えな  
さい。

- ア A たしかに B しかし C あるいは
- イ A じつさい B ただし C このようなき
- ウ A おそらく B たとえば C そこで
- エ A そもそも B そこで C はたして

問五 I に入るものとして最も適切なものをあとからひとつ選び、記号で答えなさい。

- ア ベスト
- イ ウェディングドレス
- ウ サッカーのユニフォーム
- エ プールの水着

問六 — 線③「ネクタイには、社会的な記号としての意味はある」とはどういうことを表していますか。最も適切なものをあとからひとつ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の地位を見せつける道具になる
- イ 相手に対して礼を示すことができる
- ウ 気持ちが引きしまるという効果がある
- エ 首元を守るといふ高度な機能性をもっている

問七 II に入るものとして最も適切なものをあとからひとつ選び、記号で答えなさい。

- ア 不誠実な
- イ 不足した
- ウ 不愉快な
- エ 不安定な

問八 III に入る言葉を本文中から七文字で抜き出さなさい。

問九 — 線④「人間の足を大地から保護する以上の意味」とはどういうことを表していますか。最も適切なものを

あとからひとつ選び、記号で答えなさい。

- ア 足の温度を適度に保ってくれる
- イ 自然環境に合わせて変化する
- ウ 仕事や作業の効率を上げてくれる
- エ 歩行には必要ない工夫がなされている

問十 本文の内容に合わないものをあとからひとつ選び、記号で答えなさい。

- ア 衣料の目的は、時代や環境によってさまざまに変化する。
- イ アクセサリーには機能的な意味は存在しない。
- ウ 衣料には、身体の保護ということで説明できないもののほうが多い。
- エ 身づくろいする時に重視する部分ほど、機能性を伴わない。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「ほら、自慢じゃないですが、佐藤先生のご著書は全部、うちの店にそろってるんですよ。その棚をぐらんになつて下さいな」

まさか、と思いつながら、薫子は、店の奥の方に向かいました。雑誌のコーナーの横、単行本や文庫本が並んでいる棚。すると、そこにたしかに、薫子の本は並んでいたのです。それも、もうどこにもないような昔の本や、わずかな部数しか出なかった本、絶版になって断裁処分になった本まであったのです。

薫子は信じられないような思いで、自分の本の背表紙たちを眺めました。十代の頃からこつこつと書いてきた、数十冊の本たち。ひっそりと出版されて、さして話題になることもなく、いつか消えていった本たち<sup>①</sup>。それがみんな、誇らしげに本棚に並んでいるのです。

「ありがとうございます。はは。けっこうたくさん、書いてきていたんですね、わたし」

その一冊一冊を書いていた時代のことが、背表紙を見るごとに、思い出されて、薫子はここに自分が生きてきた時間が結晶して並んでいるような、そんな気がしたのでした。

薫子は、めがねをかけ直すふりをして、指先で涙をぬぐいました。急に涙がこみあげてきたのです。その涙は哀しい涙ではなく、あたたかい、ほっとするような涙でした。

店員さんが、そつと声をかけてくれました<sup>②</sup>。

「佐藤薫子先生の本は、文章がとても美しいです。お話も美しい。けっして派手ではないですが、読んでいる間、温かい気持ちになります。街に吹く風が流れる水のように、自然で優しく、穏やかで、心地よい。街を見つめる、幸せそうなまなざしを感じて、こちらまで幸せになるんです。あなたの本は、華やかな本ではないかもしれない。けれど、この世界にあつてほしい大切な本だと、わたしは思っています」

薫子は何も言わずに、店員さんに軽く頭を下げました。その言葉がとても嬉しくて、たぶんずっと聞きたかった言葉で、でもどうお礼を言えいいのかわからなかったのです。

何か買っていかないとなあ、と思いました。入り口近くにあつた赤いかごを手に、とりあえず明日の朝の分のおいしそうな、手作り風のメロンパンを入れ、見慣れない銘柄のタンポポコーヒーのティーバッグを入れて。ここは変わった品物が多いなあ、あ、そうだ、文房具も買っていこうと、棚を探したとき――。

不思議なものに、目がとまりました。

銀色の光る何かが、白い箱に入れられて、棚にぼつりと置いてあります。そばに置かれた小さな紙に、説明が書いてあるようです。

『ペンジュラム（銀製）』

『なくしたものを探し出すことができる、不思議な魔法の振り子です。質問に答えることもできます。願い事も叶えます。道に迷っても大丈夫。帰り道を教えてくれます。』

中略

と、いつのまにかそばに来ていた店員さんが、どこかいたずらっぽい笑顔で言いました。

「いやさすがに佐藤先生、お目が高い。それはたぶん、世界でも一番いい仕事をしてくれる魔法の振り子ですよ。当店のおすすめ商品の一つです」

「えっと、不思議なもの売ってるんですね」

店員さんは I。

「コンビニたそがれ堂は、チロルチョコからオカルトグッズまで、何でも売ってるコンビニです。お客さんがお求めのものと、ここで必ず出会えるようになっていくというのが、この店の自慢ですからね。品ぞろえには、ちよつとばかり、こだわりと自信があるんです」

店員さんは、得意げに、そう言いました。そして、「特に、わけあって、オカルト系の品物に関しては、当店の得意分野だと自負しているんですよ」と、つけくわえました。

「まあ素敵<sup>てま</sup>。何でも売ってるお店なんですね」

「はい、世界中のありとあらゆる品物を当店で扱<sup>あつか</sup>っています。ほかの店には絶対にならないようなものでも、ここには必ずあるんですよ」

人差し指をびんと立てて言うと、店員さんは、<sup>③</sup>楽しそうにくすくすと笑いました。

なるほどと、薫子は思いました。たしかに、こういうオカルトグッズまでそろえているコンビニというのは、珍<sup>めづ</sup>しいかもしれません。

薫子は、その振り子を柵から取ると、買い物かごに入れました。そのとき、紙に書いてある説明書きをもう一度読んで、

(たしかにわたしはいま道 II いたかも)  
と、思いました。

それでも、何しろ霊感<sup>れい</sup>には自信がない薫子です。この魔法の振り子が、ほんとうに「おすすめの品」で、「いい仕事」をしてくれても、薫子に道を教えてくれるとは思えませんでした。それにいま、薫子には、なくしているものなどありません。

(願いごとも、特にはないかなあ……)

それでも、これを買おうと思ったのは、振り子に刻<sup>き</sup>まれていた模様が雪で、鎖<sup>くわ</sup>の端<sup>はし</sup>の飾<sup>か</sup>りが、雪の結晶だったからかもしれない。どこか、クリスマスの香<sup>か</sup>りがしたから。

中略

「——あ、道を教えてもらうの、忘れてた」

でも、そう思って引き返そうとしたとたん、目の端<sup>はし</sup>に、見覚えのある建物が見えました。

そちらに向かつて、何歩も歩かないうちに、知っている道に出くわしました。

気がついたときには、魔法のように、町の明るい雑踏<sup>ざつたつ</sup>の中に、戻<sup>も</sup>ってきていました。

「ああ、戻<sup>も</sup>ってこられた……」

ほっとしながら、ふと振り返ると——

いま来たはずの道の方は、いつのまにか降りてきた夜の闇<sup>やみ</sup>に III とつつまれて、自分がどこをどう歩いてここまで戻<sup>も</sup>ってきたのか、よくわからないのでした。

「まるで、 IV みたい」

薫子は、つぶやきました。

夜風に吹かれて寒かったのと、急ぎ足に歩いたせいとか、体<sup>てい</sup>がこわばっていたので、薫子は、近くに見えたカフェの中に入りました。人魚のマークのコーヒー屋さんです。

クリスマスブレンドをマグカップで頼<sup>たの</sup>んで、窓の近くの席に行き、華やかな商店街の方を見ながら、腰<sup>こし</sup>を降<sup>お</sup>ろしました。窓越<sup>こ</sup>しに、<sup>⑤</sup>街路樹<sup>じやうじゆ</sup>の青い光の森を見ると、水の中の景色のように、きらめく街がさらに美しく見えました。湯気を立てるコーヒートを飲みながら、忙<sup>いそ</sup>しく頭を働かせ、例のエッセイは、十二月の街の様子でも書こうかな、と思いました。いま外を歩いている人たち、幸せそうなカップルや、友人同士、外食に出かけるところらしい家族連れの表情や情景や、きらめく街や——そして、それを見る自分の、<sup>⑥</sup>楽しさのお裾<sup>すそ</sup>分けをしてもらっているような、いま<sup>⑦</sup>のこんな素敵<sup>てま</sup>に幸せな気持ちを書こうかな、と思いました。

(村山早紀『コンビニたそがれ堂 奇跡の招待状』より 問題用に一部改編している。)

【注】

\*ペンジュラム …… 振り子

- 問一 —— 線①「たち」が表しているものとして、最も適切なものをあとからひとつ選び、記号で答えなさい。
- ア 本への同情
  - イ 本への愛着
  - ウ 本への幻想
  - エ 本の多さ

- 問二 —— 線②「そつと声をかけてくれました」と最も近いものをあとからひとつ選び、記号で答えなさい。
- ア 薫子が店員の気づかいを感じたこと
  - イ 薫子が店員の声をよく聞き取れなかったこと
  - ウ 店員が薫子に遠慮りよしていたこと
  - エ 店員が薫子を思いやったこと

- 問三 —— I に入るものとして最も適切なものをあとからひとつ選び、記号で答えなさい。
- ア 胸をはずませました
  - イ 胸を痛めました
  - ウ 胸を張りました
  - エ 胸を染めました

- 問四 —— 線③「楽しそうにくすぐすと笑いました」に含まれる気持ちとして適切なでないものをあとからひとつ選び、記号で答えなさい。
- ア ほめられたことへの照れかくし
  - イ 品ぞろえへの誇らしさや自信
  - ウ ものを集めることの喜び
  - エ 思わず出た動作へのはにかみ

- 問五 —— II に入るものとして最も適切なものをあとからひとつ選び、記号で答えなさい。
- ア を探して
  - イ に迷って
  - ウ を歩いて
  - エ に立って

- 問六 —— III に入るものとして最も適切なものをあとからひとつ選び、記号で答えなさい。
- ア あっさり
  - イ のっぺり
  - ウ きっかり
  - エ とっぷり

問七 Ⅳに入るものとして最も適切なものをあとからひとつ選び、記号で答えなさい。

- ア 犬にほえられた
- イ 馬に蹴られた
- ウ 狐につままれた
- エ 蛇ににらまれた

問八 — 線④「こわばって」とありますが、「こわばる」という言葉の意味として最も適切なものをあとからひとつ選び、記号で答えなさい。

- ア 疲れ果てること
- イ 血の気が引くこと
- ウ 体が固くなること
- エ 落ち着かないこと

問九 — 線⑤「街路樹の青い光の森を見ていると、水の中の景色のように、きらめく街がさらに美しく見えまして」とありますが、それはどのようなことを表していますか。最も適切なものをあとからひとつ選び、記号で答えなさい。

- ア 街路樹の光が葉の色を青く染め、窓を通してせまってくるように見えたこと
- イ 街路樹の光が窓を通して少しぼやけて、より幻想的に見えたこと
- ウ 街路樹の光が水中メガネごしにながめたようにはっきりと見えたこと
- エ 街路樹の光が街の建物を照らして、より明るく見えたこと

問十 — 線⑥「楽しさのお裾分け」とありますが、薫子を感じている「楽しさ」の内容として最も適切なものをあとからひとつ選び、記号で答えなさい。

- ア 湯気を立てるコーヒーのあたたかさ
- イ クリスマスを迎えた街のにぎわい
- ウ 幸福感に満たされた人と人とのつながり
- エ エッセイの題材を得た喜び

問十一 あなたは友達とのかかわりの中で — 線⑦「こんな素敵に幸せな気持ち」のような感情をもったことがあると思います。どんな場面を感じたのでしょうか。次の条件を満たすように、説明しなさい。

- 条件1 題名や氏名は書かずに、本文から書きはじめること
- 条件2 表記については原稿用紙の使い方にしたがうこと
- 条件3 「場面の説明」と「そのときあなたが感じたこと」の順に二段落構成で書くこと
- 条件4 字数は100文字以上120文字以内とする
- 条件5 本文の内容と重なるものは避け、あなた自身の考えを書きなさい

